

平成23年仕事始め式 市長訓示

新年明けましておめでとうございます。

今年も雪模様の正月となりましたが、職員の皆さんには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、去年は、それぞれの部署で市政発展のためにご尽力を頂き、誠にご苦勞様でした。

早いもので越前市も、昨年10月に市制施行5周年を迎えました。

この間、初代の市長として、武生と今立の一体的なまちづくりの推進、市民との協働の促進、市民の目線に立った市政運営の3点を心がけながら、ものづくりや観光の振興、食と農の創造ビジョンの策定、防災態勢の整備、中心市街地の活性化などに取り組んでまいりました。

特に、平成20年秋以降の世界的な景気後退に伴い、市民の間に雇用や生活に対する不安が広がっていることから、今年度は総額・約67億円の公共事業費を確保し、市民生活に直結する学校施設の耐震化や道路・下水道の整備、さらには200人を超える新たな雇用の創出など、積極的な経済・雇用対策の推進を図っているところです。

併せて、去年は中心市街地に障がい者授産製品の販売・受注業務を行う県内初のアンテナショップ「セルフショップ えちぜん」を開設し、障がい者の自立支援に向けた環境整備を図るとともに、JR武生駅へのエレベーター付き跨線橋の設置に対して支援を行うなど、福祉のまちづくりを推進しました。

また、市教育振興ビジョンを策定し、学校施設の耐震化や服間保育園・幼稚園での幼保合同活動の実施など、安全・安心な教育環境の整備等を進めるとともに、(財)日本サッカー協会との協定に基づく全小中学校での「夢の教室」の実施や市内企業の協力による「モノづくり出前講座」の開催など、「夢を育む教育」の推進に力を注いだ1年でもありました。

本年も、福祉や教育をはじめ各分野で本市独自の取組みを展開し、市民が安全と安心を実感できる暮らしの実現を目指してまいりたいと決意しています。

さて、昨年4月に、国の特別天然記念物のコウノトリが40年振りに越前市に飛来し、107日間もの長期滞在を続けました。

本市では、このコウノトリを「えっちゃん」と名付け、多くの市民とともに見守り活動や観察ルールの取りまとめ、餌場作りなどの活動を行いました。

「市民との協働」や「現地現場主義」の実践であります。

本年は、福井・兵庫両県知事の合意に基づき、越前市でコウノトリの放鳥が計画されており、本市も福井県と協力して、コウノトリの放鳥、定着に向けた

準備を進めています。

これを契機に、コウノトリを生物多様性や自然再生のシンボルと位置付け、「生き物と共生する越前市」を目指して、里地里山の保全や環境調和型農業の取組みを加速化するとともに、本市の歴史や文化、自然を守り、いのちを育み、次世代に継承する活動へと昇華・発展させたいと考えているところです。

コウノトリの放鳥を通して、人と人との絆づくりや自然との共生をさらに推進し、安定感と安心感のある市政を目指してまいりますので、本年もそれぞれの部署で市政発展のためにご尽力をお願い致します。

併せて、全職員が市民福祉の一層の向上に精励するため、当たり前のことを当たり前に取り組み風土を確実に庁内に築いていきたいと考えています。一人ひとりの職員の小さな実践の積み重ねが、結果として大きな成果を生み出し、着実に市政の発展につながっていくと、私は確信するからです。

昨年から積極的に取り組んでいる庁内での挨拶の徹底も、来庁された市民が気持ちよく行政サービスを楽しむために、また職員同士がお互いの心身の健康を確認するためにも、引き続き実施していきたいと思っております。たとえ相手が挨拶をしなくても、皆さんから率先して挨拶を行うよう、一人ひとりが心掛けて下さい。

当たり前の取組みが確実にできる組織は、どんな難局に対しても強靱であり、一人ひとりの市民を大切にできる温かい施策の推進につながっていきます。併せて、一人ひとりの職員を大切にできる温かい組織風土の形成にもつながっていきます。

本年も、「現地現場主義」をモットーに、市内各地をできる限り訪問して、「地域ミーティング」や「夢・まちづくりトーク」、「市政出前講座」を開催するなど、引き続き市民との対話を重視し、市民の目線に立った市政運営を、職員の皆さんと一丸となって進めてまいります。

何とぞ、職員の皆さんも、越前市の将来に大きな夢を描き、それぞれの部署で職務に精励し、「現地現場主義」の実践を通して、市民のニーズを的確に汲み取り、市民の期待に応え、本年も市政の発展にご尽力を頂きますようお願いいたします。

結びに、皆さんが心身ともに健康で、市民福祉の向上のために本年も大いに活躍されることを祈念して、平成23年の「仕事始め式」の訓示とします。

本年も、よろしくお願い致します。